

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295300202		
法人名	有限会社ケアサポート		
事業所名	グループホームすきっぷ五十海 A棟		
所在地	藤枝市五十海2丁目7番5号		
自己評価作成日	令和7年2月11日	評価結果市町村受理日	令和7年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaj.gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2295300202-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和7年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣に蓮華寺池公園、スーパー、神社、公園等があります。施設の中庭には畑があり、育てた野菜を入居者とともに収穫し、食べる事もあります。午前中はスタッフによるレクリエーションや体操を行い、午後は個人向けのプリントやお話、漢字パズル、壁面の作品作りをして過ごしています。2ユニットになり別ユニットの方同士でお話することもあります。月に1回程、ドライブや花見等の外出レク、お誕生日等の手作りおやつ、日常的に野菜の皮むき、盛り付けなど料理レクも実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、蓮華寺池公園や白子通りに近い、静かな住宅地に立地しています。3年前にBユニットを増築し、平屋の屋内には明るい空間が広がり、スロープ付きのウッドデッキでは外気浴を楽しむことができます。日常生活においては「何かやりたい」という利用者の気持ちを尊重しており、例えば菜園での草取りや食事の支度の手伝い、創作レクリエーションに嬉しそうに取り組む利用者の姿が見られます。他にも、足腰の維持も気にかけていて、日課として定着した筋力トレーニングは本人の体調を見つつ15分から30分の時間を確保し、ラジオ体操の後にはストレッチや各種トレーニングと、体育会活動さながらに健康さへと導いています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	この地域にならなくてはならない施設を理念に掲げ管理者、職員とも日々実践に努力している。会社の理念は玄関に掲げ、従業員だけでなく来所されたご家族、お客様にも常に目に見えるようにしている。1年に一度研修を行っている	玄関入口に法人理念が掲げられ、新入職員の研修でも理念に触れるとともに、年1回係の研修を位置付けています。また、事業所独自の「行動基準」を設けて、法人理念に沿った行動につながるよう図られています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の美容院の利用、町内会の方は運営推進会議で日常の報告をしている。さわやか相談員受け入れている	地元の祭典「五十海の祭り」が再開され、事業所の見学が復活しています。ボランティアによるギター演奏もある和やかな雰囲気の中、笑顔溢れるひと時だったことは、所内の掲示写真からも確認されます	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で事故報告や日常の報告をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の関係者、民生委員、町内会長等との意見交換をし、議事録を作成しスタッフに情報共有をしている。	町内会長や行政職員、民生委員がメンバーとなり、感染症や防災訓練、緊急時の対応や事故報告といった内容で意見交換がおこなわれるとともに、入手した地域情報は運営に役立てています	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者が出席している。ご家族からの身体拘束のご希望があったとき意見を伺うことがあった。	金銭の支払いが滞っている利用者家族について、「契約解除のための条件」や「事前に話し合うこと」等の的確な助言が市役所職員から得られています。また「さわやか相談員」の受け入れも継続されています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の研修、入社時の研修をしている。ご自分で出てしまう恐れがある利用者がおられる為玄関の施錠を行っている。	身体拘束廃止委員会にて玄関の施錠、センサーマットについて話し合う機会が四半期毎にあり、該当事案について検討しています。玄関の施錠については、帰宅願望のある利用者の行動を踏まえ、現在のところ継続が見込まれています	施錠については「外に出たい」利用者には抑制感や閉塞感となりやすいことから、利用者の安定と職員の意識が慢性化しないようにとの考えを以って、昼食時間のみ開錠するといった代替案を期待します
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、精神的な虐待がないように留意し、日々の生活を観察し、身体的または精神的な状況をチェックしていく。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会を作りスタッフ全員が共有できるようにする。不参加のスタッフには資料の配布をするようにした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時または解約時だけでなく、不安や疑問点について具体的な説明をしている。いつでも相談しやすい環境づくりを心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族が何でも言える環境づくりに心がけている。ご意見があればミーティング等で話し合いを行い改善策を見つける。	毎月1回葉書にて家族に生活状況の報告を写真も添えて郵送しています。また、サービス担当者会議の機会として個別の家族を事業所に招く取組があり、家族の共感と感謝に実っていることがアンケートから確認できます	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングや申し送り、伝達ノートから職員の意見や提案をくみ取り反映させている。	今年度5~6人の新入職員が新たに加わっています。新たに導入した「新規実施事項評価」では、職員は新たな個別の対応を記載することで自主的な行動を示しやすく、理解力や行動力が向上しています	委員会活動や居室担当など役割分担に改善の余地があるため、それぞれの職員の力量に応じた活動が進むことを期待します
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者はスタッフの性格や能力等の把握に努め、希望休みの取得を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修をテーマを決めて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会へ参加し、他事業所との交流を図っていたが現在スタッフの不足もあり不参加が続いている。充実したら再度参加する		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心、安全、居心地のいいところであることを利用者が理解することが肝心。何でも話せる環境づくり、利用者、家族のニーズを理解し、コミュニケーションを大切にし、信頼関係を築いていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込書提出時、契約書説明時等、家族の要望、不安、不満を聞き、一緒に問題を解決していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族が第一に何に困っているのかを見つけ出し、最適なサービスが受けられるよう支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とはスタッフは日常生活を共にし、信頼関係を築いていくよう努めている。食器拭き、洗濯物たたみ等、家事を一緒にしていただき、暮らしを共にする同志の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を家族に連絡し、本人の思いも家族に伝えることで利用者、家族、スタッフの絆を強め共に本人を支えていくことに努めている。月1回写真付きはがきを一言添えて送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症になっても慣れ親しんだ地域で暮らせるよう地域密着型施設として、家族、親戚、友人、知人の方々が来ていただける努力をしている	ホームページ、ブログにアップされた情報は、知人や親戚の来訪となることもあり、また所内でも利用者が希望する場所へと、職員が同行して実現した例があります。人形や小物収集の趣味も継続できています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者はお互い生まれも性別も環境も異なるが、スタッフが間に入りスムーズな人間関係を作る努力をしていく。また孤立する方が出ないように席の位置を工夫していく。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所された方への面会、お見舞いに伺っていたが、現在は電話での連絡をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の希望に添えるよう努力している。レクリエーション、入浴等ご本人のご希望を伺い無理なお誘いは行わないようにしている。	利用者の意向は「介護記録」に記載して共有しています。また「介護対応表」に本人が表出した意向や嗜好を記載しています。意志の表出が困難な利用者が各ユニットに6~7名いて、選択肢をつくるなどして意向を汲み取っています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や他施設スタッフからの情報をもとに生活歴の把握、趣味、好み、病歴、サービス等を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中でその人らしい生き方、心身状態、能力の発見に努めている。自分でやれることは支援し、日々その人のペースで生活ができるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活や行動、言動に注意し、「何を求めているのか」の把握に努める。また家族のご希望についてもミーティング等で話し合っている。	キーパーソンの家族と計画作成担当でサービス担当者会議を開催しており、出席が難しいとの家族には電話で意見を得ています。介護職員への周知については、申し送りノートに議事録を挟んで全員が確認できるようにしています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を作成しスタッフは情報共有している。毎月カンファレンスを行い介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の進行、身体的介護が重くなり、パットやリハパン、日常生活に必要な品の購入、かかりつけ医の往診等、ニーズに合わせサービスを提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向に沿いながら、親戚、知人、友人、近所の方等やさわやか相談員等の面会により豊かな暮らしが可能となるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望者にはかかりつけ医の2週間に1度の往診、緊急時の往診、アドバイス、24時間医師、看護師と連絡が取れる体制ができています。ご希望時は今までの医師の受診を継続している。	事業所の看護師が訪問診療に立ち会い、一人ひとりの健康状態を書面で手渡すとともに口頭でも報告し、医療上の指示を仰いでいます。要介護認定の更新では、主治医に認定結果とともに、生活状況や健康に関する情報を伝えています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し提携先の医師と看護師が利用者の情報を共有、緊急時は24時間看護師と連絡が取れるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に関してはかかりつけ医の紹介状や施設の緊急連絡カード等用意し情報提供を行う。入院中は病院の相談員と連絡を取る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族のご希望、健康状態などを考慮し早めの相談を行う。契約時の説明にて看取りは基本的には行わない事説明し、急変時は救急車を呼ぶこと説明している。	医師の意見を踏まえ、重度化に至る前の段階で家族に相談しています。更に、医療的行為をはじめ、食事の経口摂取が難しくなった場合は、此処での生活は難しいことは予め家族に説明してあります	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の研修をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での防災訓練をして、消防署、運営推進会議で報告している	ハザードマップを確認したところ、洪水時に0.5mの被害が想定されています。そういった立地も含み、災害時業務継続計画(BCP)の整備を図り、災害・感染の研修及び訓練を実施しています	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれの性格や生活歴を知り、人生の先輩であるということを常に「念頭におき、尊敬の気持ちを忘れずに接することを心がけている。	職員同士の申し送りでは部屋番号で呼び、ま利用者に関することは小さな声でと職員には教育しています。また、SNSへのアップロードにおいても、利用者のプライバシーを侵害することのないように図っています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の考えを言える雰囲気づくりに努める。レクリエーションや散歩、入浴の誘いでもしつこく聞かないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中でその人の希望に添った暮らしができていくかを観察しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の方が来ている。ご本人希望時は衣類等家族と連絡して購入を決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し提供している。野菜の皮むき、食器を拭いていただく等の支援を行っている。月に1回料理レク(ケーキ、お好み焼き、どら焼きなど)を実施している。	食材は事業所に届くようになっています。利用者には下ごしらえや盛り付けで日常的に係わっており、調理レクも定期的に開催しています。食事の支度に楽しく関わることで、普段に比べて食欲が増す利用者もいます	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録やバイタルチェック表により管理している。お茶が苦手な方には甘い飲み物を提供するなど、それぞれの好みに配慮した水分提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け行っている。自力では困難な方は介助にて行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い個々の排泄パターンを把握し声掛け誘導を行っている。ご自分で行える方は出来るところは行っていただいている。	日々記録する「排泄チェック表」から排泄の状態が把握され、誘導のタイミングが調整できています。紙パンツにパットの利用者が多く、布パンツは少ない状態ですが、オムツの利用はありません	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い水分補給や体操の声掛けを行い、医師や看護師と相談し内服を行っている。起床後に氷水やお茶を提供するなど、自然排便ができるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間順番はなるべくご希望に添うようにし、話をしながら楽しく入れるように支援している。無理強いはずせず、入れるときに入るように心がけている。	Aユニットでは開閉式の浴槽により段差が解消され、Bユニットでは予め浴槽を低く設置しています。ユニット間を相互利用することで重度化となってもスムーズな入浴ができます。冬至の時期には柚子の香りを楽しむ日もあります	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調により昼寝をお勧めすることもある。夜間安眠できるような環境を整え、不眠の訴え時は傾聴している。昼寝の時は無理なお誘いはしないよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師指導の下、処方された薬の内容をカルテに閉じ、症状の変化はバイタルチェック表、介護記録でスタッフ共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、掃除、洗濯物たたみ等毎日の生活の中で出来ることを行い、脳トレや散歩、漢字パズル等行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	受診はご家族同伴にて出かけていただいている。外出・外泊ご希望時可能としている。	定期的な市外への外出レクリエーションの他、週1回は利用者全員が敷地内のテラスで外気浴をしています。月1回を目安に近隣の散歩がおこなわれ、家族の協力のもと、外出や外泊も継続されています	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の個々の状態により判断しているが原則施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、ご本人から希望があれば対応している。スマホを持っている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭のような雰囲気づくりに心がけている。スタッフや利用者の手作りの作品を飾ったり、熱帯魚を飼って居心地の良い空間づくりを心がけている。	平屋建ての広い共用空間には、天窗からの日差しが差し込み、明るく風通しのよい印象を受けます。掲示物には利用者の参加したレクリエーションや行事の様子が、表情豊かに映っていることを視認しました	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにテレビ・ソファ・椅子を、庭にベンチを配置し、好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた物、好みの物を持ってきていただいている。入所中に必要なものは買い物に同行し買い揃えたり、本人の好みを尊重している。	居室にはテレビやラジオが持ち込まれ、壁にはポスターやカレンダーが飾られた居室もあります。創作物を飾ったり、遺影や位牌を持ち込んで故人を偲ぶ利用者もいます	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっており、手すり、車いす用トイレ、スプリンクラーと安全に配慮して作りとなっている。個々の状態を把握しながら自立した生活が送れるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295300202		
法人名	有限会社ケアサポート		
事業所名	グループホームすきっぷ五十海 B棟		
所在地	藤枝市五十海2丁目7番5号		
自己評価作成日	令和7年2月11日	評価結果市町村受理日	令和7年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2295300202-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和7年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣に蓮華寺池公園、スーパー、神社、公園等があります。施設の中庭には畑があり、育てた野菜を入居者とともに収穫し、食べる事もあります。午前中はスタッフによるレクリエーションや体操を行い、午後は個人向けのプリントやお話、漢字パズル、壁面の作品作りをして過ごしています。2ユニットになり別ユニットの方同士でお話することもあります。月に1回程、ドライブや花見等の外出レク、お誕生日等の手作りおやつ、日常的に野菜の皮むき、盛り付けなど料理レクも実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、蓮華寺池公園や白子通りに近い、静かな住宅地に立地しています。3年前にBユニットを増築し、平屋の屋内には明るい空間が広がり、スロープ付きのウッドデッキでは外気浴を楽しむことができます。日常生活においては「何かやりたい」という利用者の気持ちを尊重しており、例えば菜園での草取りや食事の支度の手伝い、創作レクリエーションに嬉しそうに取り組む利用者の姿が見られます。他にも、足腰の維持も気にかけていて、日課として定着した筋力トレーニングは本人の体調を見つつ15分から30分の時間を確保し、ラジオ体操の後にはストレッチや各種トレーニングと、体育会活動さながらに健康さへと導いています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	この地域にならなくてはならない施設を理念に掲げ管理者、職員とも日々実践に努力している。会社の理念は玄関に掲げ、従業員だけでなく来所されたご家族、お客様にも常に目に見えるようにしている。1年に一度研修を行っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の美容院の利用、町内会の方は運営推進会議で日常の報告をしている。さわやか相談員受け入れている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で事故報告や日常の報告をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の関係者、民生委員、町内会長等との意見交換をし、議事録を作成しスタッフに情報共有をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者が出席している。ご家族からの身体拘束のご希望があったとき意見を伺うことがあった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の研修、入社時の研修をしている。ご自分で出てしまう恐れがある利用者がおられる為玄関の施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、精神的な虐待がないように留意し、日々の生活を観察し、身体的または精神的な状況をチェックしていく。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会を作りスタッフ全員が共有できるようにする。不参加のスタッフには資料の配布をするようにした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時または解約時だけでなく、不安や疑問点について具体的な説明をしている。いつでも相談しやすい環境づくりを心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族が何でも言える環境づくりに心がけている。ご意見があればミーティング等で話し合いを行い改善策を見つける。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングや申し送り、伝達ノートから職員の意見や提案をくみ取り反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者はスタッフの性格や能力等の把握に努め、希望休みの取得を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修をテーマを決めて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会へ参加し、他事業所との交流を図っていたが現在スタッフの不足もあり不参加が続いている。充実したら再度参加する		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心、安全、居心地のいいところであることを利用者が理解することが肝心。何でも話せる環境づくり、利用者、家族のニーズを理解し、コミュニケーションを大切にし、信頼関係を築いていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込書提出時、契約書説明時等、家族の要望、不安、不満を聞き、一緒に問題を解決していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族が第一に何に困っているのかを見つけ出し、最適なサービスが受けられるよう支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とスタッフは日常生活を共にし、信頼関係を築いていくよう努めている。食器拭き、洗濯物たたみ等、家事を一緒にしていただき、暮らしを共にする同志の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を家族に連絡し、本人の思いも家族に伝えることで利用者、家族、スタッフの絆を強め共に本人を支えていくことに努めている。月1回写真付きはがきを一言添えて送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症になっても慣れ親しんだ地域で暮らせるよう地域密着型施設として、家族、親戚、友人、知人の方々が来ていただける努力をしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者はお互い生まれも性別も環境も異なるが、スタッフが間に入りスムーズな人間関係を作る努力をしていく。また孤立する方が出ないように席の位置を工夫していく。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所された方への面会、お見舞いに伺っていたが、現在は電話での連絡をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の希望に添えるよう努力している。レクリエーション、入浴等ご本人のご希望を伺い無理なお誘いは行わないようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や他施設スタッフからの情報をもとに生活歴の把握、趣味、好み、病歴、サービス等を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中でその人らしい生き方、心身状態、能力の発見に努めている。自分でやれることは支援し、日々その人のペースで生活ができるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活や行動、言動に注意し、「何を求めているのか」の把握に努める。また家族のご希望についてもミーティング等で話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を作成しスタッフは情報共有している。毎月カンファレンスを行い介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の進行、身体的介護が重くなり、パットやリハパン、日常生活に必要な品の購入、かかりつけ医の往診等、ニーズに合わせサービスを提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向に沿いながら、親戚、知人、友人、近所の方等やさわやか相談員等の面会により豊かな暮らしが可能となるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望者にはかかりつけ医の2週間に1度の往診、緊急時の往診、アドバイス、24時間医師、看護師と連絡が取れる体制ができています。ご希望時は今までの医師の受診を継続している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し提携先の医師と看護師が利用者の情報を共有、緊急時は24時間看護師と連絡が取れるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に関してはかかりつけ医の紹介状や施設の緊急連絡カード等用意し情報提供を行う。入院中は病院の相談員と連絡を取る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族のご希望、健康状態などを考慮し早めの相談を行う。契約時の説明にて看取りは基本的には行わない事説明し、急変時は救急車を呼ぶこと説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の研修をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での防災訓練をして、消防署、運営推進会議で報告している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれの性格や生活歴を知り、人生の先輩であるということを常に「念頭におき、尊敬の気持ちを忘れずに接することを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の考えを言える雰囲気づくりに努める。レクリエーションや散歩、入浴の誘いでもしつこく聞かないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中でその人の希望に添った暮らしができていくかを観察しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の方が来ている。ご本人希望時は衣類等家族と連絡して購入を決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し提供している。野菜の皮むき、食器を拭いていただく等の支援を行っている。月に1回料理レク(ケーキ、お好み焼き、どら焼きなど)を実施している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録やバイタルチェック表により管理している。お茶が苦手な方には甘い飲み物を提供するなど、それぞれの好みに配慮した水分提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け行っている。自力では困難な方は介助にて行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い個々の排泄パターンを把握し声掛け誘導を行っている。ご自分で行える方は出来るところは行っていただいている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い水分補給や体操の声掛けを行い、医師や看護師と相談し内服を行っている。起床後に氷水やお茶を提供するなど、自然排便ができるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間順番はなるべくご希望に添うようにし、話をしながら楽しく入れるように支援している。無理強いはず、入れるときに入るように心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調により昼寝をお勧めすることもある。夜間安眠できるような環境を整え、不眠の訴え時は傾聴している。昼寝の時は無理なお誘いはしないよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師指導の下、処方された薬の内容をカルテに閉じ、症状の変化はバイタルチェック表、介護記録でスタッフ共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、掃除、洗濯物たたみ等毎日の生活の中で出来ることを行い、脳トレや散歩、漢字パズル等行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	受診はご家族同伴にて出かけていただいている。外出・外泊ご希望時可能としている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の個々の状態により判断しているが原則施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、ご本人から希望があれば対応している。スマホを持っている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭のような雰囲気づくりに心がけている。スタッフや利用者の手作りの作品を飾ったり、熱帯魚を飼って居心地の良い空間づくりを心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにテレビ・ソファ・椅子を、庭にベンチを配置し、好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた物、好みの物を持ってきていただいている。入所中に必要なものは買い物に同行し買い揃えたり、本人の好みを尊重している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっており、手すり、車いす用トイレ、スプリンクラーと安全に配慮して作りとなっている。個々の状態を把握しながら自立した生活が送れるように支援している。		